

# VOGUE JAPAN

4  
April  
2014  
No. 176  
¥600

ヴォーグ ジャパン



グラフィティ、アブストラクト etc.

## アートをまとって 新・自分発見。

アートを買う方法  
教えます。

セレブとアートの甘い関係。

草間彌生  
インタビュー！  
「愛と芸術に生きる」

大人が遊べる  
可愛い  
キャラ・モード。



★特別付録  
VOGUE×  
スヌービー  
特製ステッカー

BIGBANGの  
G-DRAGON  
世界が注目の  
おしゃれ公開。

毎号付録  
Welcome to Japan  
「おもてなし  
和食ガイド」

おしゃれスナック  
@クチュール&メンコ

毎号  
VOGUE Shoppin  
を「スペシャル」を買う。

普段着でもおしゃれに見える  
ファッションイスタの  
シーン別コーデ術

20 page

# ART OF STYLE

モードの国にアートの季節がやってきた！



JOE CASTIBLANCO

JEREMY SCOTT

ジーンが読み解く、2014年春夏  
アート×モードの相関図。

ウーレンはクラシックなムードから、遊び心あふれるタッチまで、さまざまなアートがランウェイを彩っている様子。ポップなカラーとユニークなモチーフを取り入れたジェレミー・スコットは、現代アート作家、ケニー・シャーフから、アルゴの伝説と知られる画家、エム・デからインスパイアされたグッチ。建築家、エルズワース・ヤリーと彫刻家ブランチーニの作品が受け込んだような独創的なデザインはオスカー・ワイルド。

ファッションを一つの芸術形式だとする私の主張は当然、読者にとって目新しいものではない。芸術はさまざまな形を愛する創造プロセスだ。誰もが自由に定義できる。だからアーティストがコラボレーションしたいと望むのも、芸術が持つ可能性や自らをどう見なすかの可能性を広げたいと望むのもごく普通のことだ。ファッションは生きた、進化する道具。それはその時々でインスパイアされた文化を表現しているにすぎない。彼らは常に自己表現の新たな方法を探している。

デザイナーのポール・ポワレ(1879-1944年)まで遡ってみよう。彼はアーティストとのコラボレーションを極めて早い段階で行ったデザイナーの一人だ。その優れたアーティストと野獣派のラウル・デュフィ。もちろんこれが初めてではない。アーティストとデザイナーとのコラボレーションもまたどればおそらく12世紀まで遡れるだろう。ルーブル美術館やメトロポリタン美術館へ足を運べばそれは明らかになる。しかし、これは意識的な決断や明確な選択と考えるほどのものではなかった。このことを明確にしたデザイナーを一人挙げるとすればそれはエルザ・スカパレリ(1890-1973年)しかない。結局、彼女はファッションのためのデザインを放棄してしまう。元祖トロンプルイユのボウセーターを発案に、彼女がファッションに新しい解釈、ユーモア、ウィット、見たことのない悪戯心を加えたことは明らかだった。事実、今日では名作と見なされている素晴らしい衣装を当時の数多くの巨匠たちとのコラボで生み出している。

スカパレリの代表作であり、サルバドール・ダリとのコラボで

有名な、ロブスタードレス。かの有名な靴の形をした帽子も同じダリとのコラボである。そして、コクトーとのコラボの美しい花瓶のジャケット、並外れた才能のクリスチャン・ベラール(シアラ・テラ・モード)展示で有名なとのコラボ。すべてが自らをどう表現できるかという斬新かつ刺激的なアイデアをファッションにもたらしたのだ。

オスカー・ワイルドの言葉によれば一人は芸術作品を愛するが、自身が作品になるべきだ。彼女はこの言葉を現実のものにした。さらに、独自の影響を及ぼしたソニアとロベール・ドローネのプリンともそうだ。

現代において、このようなアートとデザイナーのコンセプトを広げるためにより多くのことをやってきたのはヴィヴィアン・ウエストウッドをおいて他にはいない。今ではすっかり有名なストリート、アーティストのキース・ヘリングとのコラボ作品、ロマン派のフラゴナール、ピカソ、それにもちろん彼女のお気に入りのアンリ・マティスにインスパイアされたデザイン。これらはファッション芸術とファッションとの関係をどう解釈するかという疑問を多くの人に投げかけた。

何年か前にロシア構成主義のコレクションを披露したゴルチエのように、最新のコレクションはリエダ・カーロに寄せる叙情詩だ。ジェレミー・スコットはヘリングと同時代のケニー・シャーフとのコラボで、昔のヒップホップを彷彿させる鮮やかなストリート派コレクションを発表している。マーク・ジェイコブスは偉大な故ステ

時を超えて創造の本質を表現する美学。

現代において、このようなアートとデザイナーのコンセプトを広げるためにより多くのことをやってきたのはヴィヴィアン・ウエストウッドをおいて他にはいない。今ではすっかり有名なストリート、アーティストのキース・ヘリングとのコラボ作品、ロマン派のフラゴナール、ピカソ、それにもちろん彼女のお気に入りのアンリ・マティスにインスパイアされたデザイン。これらはファッション芸術とファッションとの関係をどう解釈するかという疑問を多くの人に投げかけた。

何年か前にロシア構成主義のコレクションを披露したゴルチエのように、最新のコレクションはリエダ・カーロに寄せる叙情詩だ。ジェレミー・スコットはヘリングと同時代のケニー・シャーフとのコラボで、昔のヒップホップを彷彿させる鮮やかなストリート派コレクションを発表している。マーク・ジェイコブスは偉大な故ステ

有名な、ロブスタードレス。かの有名な靴の形をした帽子も同じダリとのコラボである。そして、コクトーとのコラボの美しい花瓶のジャケット、並外れた才能のクリスチャン・ベラール(シアラ・テラ・モード)展示で有名なとのコラボ。すべてが自らをどう表現できるかという斬新かつ刺激的なアイデアをファッションにもたらしたのだ。

オスカー・ワイルドの言葉によれば一人は芸術作品を愛するが、自身が作品になるべきだ。彼女はこの言葉を現実のものにした。さらに、独自の影響を及ぼしたソニアとロベール・ドローネのプリンともそうだ。

有名な、ロブスタードレス。かの有名な靴の形をした帽子も同じダリとのコラボである。そして、コクトーとのコラボの美しい花瓶のジャケット、並外れた才能のクリスチャン・ベラール(シアラ・テラ・モード)展示で有名なとのコラボ。すべてが自らをどう表現できるかという斬新かつ刺激的なアイデアをファッションにもたらしたのだ。

イブサン・スブラウス(ウオーホル風)やリチャード・プリンスといったアーティストらとのコラボ作品を手がけることで素晴らしいキャリアを築いてきた。彼は服をキャンパスにしたのだ。巨匠イヴ・サンローランのポップアートおよびモンドリアン・コレクションは、両方ともにファッション界がこれまで目にしたなかでも秀逸の作品として最高の解釈だった。

今シーズン、グッチではエルテの、アキラ・ノリモンディではゴキヤンの、アナスイではラファエル・ゲルスの、コム・デギャルソンとセリーヌではクラフィティなどのさまざまなインスピレーション源がデザイナーに与えた影響を私たちは目にしていた。

しかし私にとって最も印象的だったのは、ミウッチャ・プラダ最高のコレクションの一つで女性のパワーを証明する(ミウッチャ・プラダ(南アメリカの女性の意)アート)だった。これはファッションとしてのアート、アートとしてのファッションということだけでなく、重大な社会的、政治的声明、しばらく私たちが目にしていないような真のストローガンでもあったのだ。

プラダのコレクションは他に類を見ないものを感じさせている。つまり、これが伝統。早くも又明そのものまで遡ることが出来る伝統。であるということを示しているのだ。芸術には神性がある。美には神性がある。それを最も表現しているのが私たち人間だ。なぜなら境界もリミットもないから。唯一あるのは異なる存在だと認識されることへの不安。異なることこそが創造の本質であることに気づいていない。ファッションは表現の手段。私たちの多くが持っている表現手段のこと。それを使わない手はない。

イブサン・スブラウス(ウオーホル風)やリチャード・プリンスといったアーティストらとのコラボ作品を手がけることで素晴らしいキャリアを築いてきた。彼は服をキャンパスにしたのだ。巨匠イヴ・サンローランのポップアートおよびモンドリアン・コレクションは、両方ともにファッション界がこれまで目にしたなかでも秀逸の作品として最高の解釈だった。

今シーズン、グッチではエルテの、アキラ・ノリモンディではゴキヤンの、アナスイではラファエル・ゲルスの、コム・デギャルソンとセリーヌではクラフィティなどのさまざまなインスピレーション源がデザイナーに与えた影響を私たちは目にしていた。

イブサン・スブラウス(ウオーホル風)やリチャード・プリンスといったアーティストらとのコラボ作品を手がけることで素晴らしいキャリアを築いてきた。彼は服をキャンパスにしたのだ。巨匠イヴ・サンローランのポップアートおよびモンドリアン・コレクションは、両方ともにファッション界がこれまで目にしたなかでも秀逸の作品として最高の解釈だった。

今シーズン、グッチではエルテの、アキラ・ノリモンディではゴキヤンの、アナスイではラファエル・ゲルスの、コム・デギャルソンとセリーヌではクラフィティなどのさまざまなインスピレーション源がデザイナーに与えた影響を私たちは目にしていた。

イブサン・スブラウス(ウオーホル風)やリチャード・プリンスといったアーティストらとのコラボ作品を手がけることで素晴らしいキャリアを築いてきた。彼は服をキャンパスにしたのだ。巨匠イヴ・サンローランのポップアートおよびモンドリアン・コレクションは、両方ともにファッション界がこれまで目にしたなかでも秀逸の作品として最高の解釈だった。

今シーズン、グッチではエルテの、アキラ・ノリモンディではゴキヤンの、アナスイではラファエル・ゲルスの、コム・デギャルソンとセリーヌではクラフィティなどのさまざまなインスピレーション源がデザイナーに与えた影響を私たちは目にしていた。